

印旛沼クリーン大作戦

活動報告書



報告日	令和元年 10月 23 日
報告者	東洋大学 4年 阿部桃子

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

活動概要

背景

印旛沼は千葉県北西部に位置し、13の市町村に跨がる利根川水系の湖沼です。周辺の農業用水や京葉工業地域への工業用水、千葉市、習志野市、船橋市の飲料用水として供給されているほか、内水面漁業もおこなわれ、コイやフナなどが漁獲されています。

しかし観賞用に持ち込まれた可能性のあるナガエツルノゲイトウ（外来植物）が水路、河川、湿地等、印旛沼流域にて大幅に繁茂してしまっています。大雨の際には、ナガエツルノゲイトウの群落が流失してしまい、それらが排水機場に漂着し、排水作業に支障をきたします。そればかりでなく、洪水の被害を引き起こす可能性があるなど地域の安心、安全に影響を及ぼしています。そこで地域の安心、安全、観光・漁業資源および生物多様性の確保の観点から、沼水環境の健全化を図ることが重要視されています。「そんな印旛沼を変えたい。」「印旛沼を地元の方々にとっての身近な沼にしたい。」といった思いから、2016年、神崎川での大規模除去活動を開始しました。

今年4年目を迎える活動として、当協会の学生だけではなく、地元の住民や周辺の学校の大学生など、より地域を巻き込んだ運動へと発展させていくと共に、治水リスクの軽減と印旛沼流域の水環境の健全化に寄与していきます。



目的

印旛沼流域に大量繁殖する、ナガエツルノゲイトウ（外来植物）を除去し、大和田排水機場の治水リスクの軽減を図ると共に、印旛沼流域の水環境の健全化に寄与する。また、地域を巻き込むことにより、活動から運動へと発展させていく。

概要

■ 主催

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

■ 活動日程

令和元年 8 月 8 日～8 月 10 日（3 日間）

■ 活動場所

千葉県 印西市神崎川佐山橋上流

■ 活動内容

- ・ナガエツルノゲイトウの除去活動
- ・バーベキュー交流会
- ・意見交換会

■ 参加人数

3 日間合計 計 422 名

（IVUSA 学生 93 名、事務局 1 名）

■ 総作業（ボランティア）時間

3 日間合計 計 4092 時間

■ 参加者所属大学（敬称略、順不同）

跡見女子大学/神奈川大学/群馬県立女子大学/埼玉県立大学/国士館大学/高崎経済大学/中央大学/東京家政大学/東京電機大学/東洋大学/日本大学/日本赤十字看護大学/フェリス女学院大学/法政大学/関西大学/京都産業大学/同志社大学/立命館大学/龍谷大学/東北公益文化大学

計 20 大学

■ 協力（敬称略・順不同）

印旛沼流域水循環健全化会議/千葉県県土整備部河川環境課/株式会社水圏科学コンサルタント/千葉県県土整備部印旛土木事務所/独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所/八千代市環境保全課/八千代市農政課/印西市土木管理課/印西市環境保全課/企業局工業用水部施設設備課/企業局工業用水部千葉工業用水道事業所/パシフィックコンサルタント株式会社/八千代エンジニヤリング株式会社/株式会社荏原電産/鹿島川土地改良区印旛土木事務所/特定非営利活動法人環境パートナーシップちば/株式会社電業社機械製作所/株式会社中央設備/シノブフーズ株式会社/神崎川を守るしろい八幡の会/東邦大学/千葉大学/中央学院大学

■ 寄付・協賛（敬称略・順不同）

企業名：株式会社オーシャンライフ

協賛品：ライフジャケット 30 着

活用場面：水中での作業

企業名：株式会社シバタ

協賛品：ブルーシート 100 枚

活用場面：ナガエツルノゲイトウの運搬作業

企業名：弘進ゴム株式会社
協賛品：胴付き長靴 5着
活用場面：ナガエツルノゲイトウの除去作業

企業名：弘進ゴム株式会社
協賛品：ゴム長手袋 60 双
活用場面：ナガエツルノゲイトウの除去作業

企業名：株式会社ダンロップホームプロダクツ
協賛品：ロングタイプ長手袋 60 双
活用場面：ナガエツルノゲイトウの除去作業

企業名：モンスター エナジー ジャパン 株式会社
協賛品：モンスター エナジー キューバリブレ 144 本
活用場面：活動中の水分補給

企業名：株式会社シバタ
協賛品：小コンテナボックス 50 個
活用場面：道具や水分補給用の飲料の保管・運搬

掲載情報：Facebook ページ/NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

Facebook ページ/IVUSA 印旛沼クリーン大作戦

使用風景につきましては、Facebook ページ内にて掲載させていただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

活動内容

夏の炎天下に負けずに気合を入れて

活動初日、お天気にも恵まれた中、活動がスタートしました。関係者の方々と行う朝礼では、「地元の安心を守り、地元の関心を集め、身近な沼へ一歩前進！」というコンセプトを改めて心に刻み、皆がその想いを胸に「頑張るぞー！」「オー！」の掛け声と共に、3日間の活動の幕を上げました。



朝礼の様子



作業は水域メンバーがナガエツルノゲイトウを陸から切り離し、陸域メンバーがそれを引き上げ、袋に詰め、収集車まで運びます。今年は、例年より気温が高かったこともあり、例年に増してハードなものとなりました。そんな中、はじめは探し探りで作業を

ナガエツルノゲイトウを引き上げる様子

していた学生達も、徐々に慣れていくうちに現場で声をかけあう姿が見られるようになりました。その後も学生らしい若さとパワーを生かし、関係者の方や地元の方と共に、暑さも吹き飛ばして作業に奮闘しました。

繋がりをさらに強めて

今年は地元の方に参加していただける日程を3日間に増やし、より多くの方を巻き込んで活動を行いました。今年は、特に学生をターゲットに巻き込みを行い、37人の地元の学生と共に活動をすることができました。学生同士の交流も増え、地元の学生に印旛沼の問題を知ってもらえる良い機会になったと思っております。2日目には、作業後に関係者の方々、地元住民や学生と共にバーベキュー交流会を行いました。農家の方から差し入れしていただいたお野菜やお肉も美味しくいただきながら、作業のこと、印旛沼のこと、お互いのことなど様々なお話をし、とても有意義で心温まる時間を過ごすことができました。



印旛沼のために自分達にできることを

最終日は3日間の中で最も暑い一日となりましたが、こまめに休憩をとりながら、最後まで残る力を全て振り絞り作業に取り組みました。全ての作業を終えた後には、関係者の方や参加してくれた学生と共に、3日間の活動を通しての感想や反省点、次に繋げられる改善点について話し合う意見交換会を行いました。その中で、それぞれの立場から印旛沼を「身近な沼」にする為に自分に何ができるのかを話し合いました。それが自分にできることを話し合うことにより、自分にできることが明確となり、本来私達が目指すべきである、現地の課題に対し、その地元の方々が自らアクションを起こして解決するということにさらに近づけたように感じられました。



ナガエツルノゲイトウを運搬する様子



意見交換の様子

さらに、関係者の方から実際にそれが印旛沼に対してどのように取り組んでいるのか詳しくお話をいただきました。お話を聞いた隊員や地元の学生は、印旛沼の問題が今回のナガエツルノゲイトウの大量繁殖だけでなくことを知り、印旛沼の問題の根深さや自分達にできることの可能性を感じることができた様子でした。それが印旛沼のためにできることを再確認し、共有することができたことは、さらに結束感を強め、印旛沼の未来へとまた一步踏み出すことに繋がりました。

活動成果

活動目的

印旛沼流域に大量繁殖する、ナガエツルノゲイトウ（外来植物）を除去し、大和田排水機場の治水リスクの軽減を図ると共に、印旛沼流域の水環境の健全化に寄与する。また、地域を巻き込むことにより、活動から運動へと発展させていく。

■3日間合計駆除量 9.05トン

大和田排水機場のある新川に合流する神崎川の佐山第二橋から名無橋の間(2.3km)に繁茂するナガエツルノゲイトウ 9.05 トン(3日間合計)を駆除することができました。昨年よりも約 900m 広いエリアの駆除を達成いたしました。

■3日間合計 148 人の駆除活動参加

今年は学生の巻き込みにも力を入れ、37人の地元学生にも参加いただきました。また、2日目のバーベキュー交流会に37人参加をいただき、多くの地元の方を巻き込むことができました。

メディア掲載

名称	掲載日/放送日時	掲載面/番組名
千葉テレビ	2019年8月8日 18:00~18:15	NEWS チバ 600
千葉テレビ	2019年8月8日 21:30~21:55	NEWS チバ 930
読売新聞	2019年8月11日	読売東京 朝刊 千葉

外 来 種 繁 殖 拡 大 防 げ

神崎川 学生らが駆除作業

南米原産の植物で、印旛
沼水系で繁殖している特定
外来生物「ナガエツルノゲ
イトウ」の拡大を防ぐべく、
学生ボランティアや県職員
による駆除作業が8~10

日、印旛沼上流の神崎川で
行われた。県河川環境課によると、
ナガエツルノゲイトウは水
辺で生育し、繁殖力が強い。
印旛沼周辺では1990年
頃から広がり始めたとみら
れる。水田や農業水路にも
なる。

①川で駆除したナガエツルノゲ
イトウを袋に詰める学生ら②川
に入って駆除作業をする参加者
(いずれも8日、神崎川で)

所感

学生の想いからはじまったこの活動も、今年で4年目を迎えました。これまでの3年間は、協力してくださる皆様と共に経験と技術を積み上げ、完全除去を目指し続け、昨年度ついに活動範囲内のナガエツルノゲイトウの完全除去を達成いたしました。そして4年目の今年は、今まで蓄積してきた経験や技術を生かしながら、さらに多くのナガエツルノゲイトウを除去すると共に、より多くの地元の方々を巻き込み、本格的に活動から運動に変えていく第一歩を踏み出す年となりました。今回は新たに初めて参加して下さった学生や市民団体さんとの繋がりも増え、より多くの方に印旛沼の問題に目を向けてもらうことができたと感じています。ここでのご縁を大切にし、地元の方々と印旛沼が繋がるきっかけであり続けたいと改めて感じました。また、毎年参加してくださる関係者の方々が年々増えていくことも、印旛沼に対し関心を持つ方が増えている証拠であり、毎年のようにお力を貸していただけていることを心より感謝しております。そして今回の活動で、ナガエツルノゲイトウの繁殖力の強さを改めて痛感し、今後も地道にやっていく必要があると思いました。地道にやっていく必要があるからこそ、今後も活動から運動へ、地元の方々が自らアクションを起こしていける環境やきっかけを私達が作っていく必要があると感じております。なので、今後もこの印旛沼流域の美しい自然や地元の方々の安心を守り、多くの地元の方々にとつて印旛沼を身近な存在にしていきます。そのためには、私達は活動を継続していきます。今回の活動において、協力してくださったすべての方々に感謝いたします。

除去したナガエツルノゲイトウと共に
(東洋大学4年 阿部桃子)



環境保護

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

災害救援、国際協力、環境保護、地域活性化、子どもの教育支援の5分野を柱とし、カンボジアでの小学校建設活動、多摩川清掃、中国黄土高原緑化活動など、多岐に渡って活動を展開。2002年5月に、特定非営利活動法人の認証を受け、2006年には、過去50回に及ぶ災害救援活動と、日々の会員の危機管理講習や災害想定訓練が評価され内閣総理大臣表彰を頂きました。また、国内外あわせて、今までに4,449（2018年度末）の事業を実施。現在では首都圏・近畿地方を中心に、約74大学、約3,500人の学生会員が所属しています。

<本部>

住所 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4 ザ・アゼリアハウスB-102

TEL/FAX 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com URL <http://www.ivusa.com>

<関西事務所>

住所 〒569-1121 大阪府高槻市真上町1-1-18 Insist21-3B

TEL/FAX 072-601-5109 E-mail ivusa-office@ivusa.com